Adam : la revue de l'homme（アダム）
→ Le nouvel Adam（ル・ヌーヴェル・アダム）→ Adam（アダム）

Paris : [s.n.], 1925－[1973?]

1925年12月に創刊された、当時としては稀少な男性誌。1920年代前半を代表する男性誌「ムシュー（Monsieur）」の廃刊を受けて創刊されたもので、当初は「ムシュー」を踏襲して発行されていた。趣味やファッションを楽しむ余裕のある壮年の紳士を対象にしている。本館では8号（1926年11月）を最古号とし、その後欠号はあるものの1966年の最終号まで所蔵している。

外国の雑誌にはよくあることだが、「アダム」にも出版社名の明示はなく、発行地（Paris）だけが表記されている。259号（1960年6/7/8月）からは、大手出版社コンデ・ナスト社からの発行が確認できるようになる。同社は、ニューヨーク生れの出版業者コンデ・ナスト（Condé Nast 1873－1942）により創立され、1909年に「ヴォーグ（Vogue）」誌を買収した後、多数の雑誌を発行してきた。

本誌には当初からディレクターとしてエドモンド・デュボワ（Edmond J. Dubois）の名が記されている。編集長といったところではないかと思われるが、これは発行社がコンデ・ナスト社になってからも変わっていない。259号の目次ページには、デュボワの文章が掲載されている。そこでは、「今号から『アダム』は、『ヴォーグ』フランス版や『メゾン・エ・ジャルダン（Maison & jardin）』を発行している大手出版社コンデ・ナスト社から発行することになる。今後はコンデ・ナスト社からその名前の威光および金銭面でのサポートを受けるが、雑誌の制作方針については1925年の創刊以来続いてきたものを変えるつもりはない。今後も男性ファッション、スポーツ、猟銃狩猟、乗馬、ゴルフ、スキー、旅行、演劇、装飾品、パリでの生活、住居といった広範囲の情報を提供しつづけていく」といった内容を述べている。

刊行頻度については8号の最初のページに明記してあるように、当初から1930年代までは月刊だったが、1940年代後半には年6回刊行に減っている。コンデ・ナスト社に変わった翌年（1961年）から次第に増え、1963年からは年10回刊行するようになった（夏および年末を除き毎月刊行）。

表紙および本文挿絵のイラストレーターも「ムシュー」から多くを引き継いでいる。8号の表紙は「ムシュー」でも活躍したジョルジュ・ブラウン（Georges Braun）が描いている。115号（1935年11月）からは、ギャレット（Garretto）が表紙を飾るようになり、160号（1939年8月）までほとんどすべての表

8号（1926年11月）表紙　G.ブラウン画

紙を担当している。ギャレットによる表紙は、風刺的な独特なタッチで描かれており、これまでのリアリティーのある表紙に比べ大きなイメージチェンジとなった。コンデ・ナスト社から発行されるようになってからの表紙には写真が使われている。

「アダム」は、312号（1966年6月）で終刊となり、翌月には「ル・ヌーヴェル・アダム（Le nouvel Adam）」と改題し、第1号が刊行されている。本館所蔵最古号の2号（1966年9月）によると、出版社はパリのNouvel Adamとなっているので、コンデ・ナスト社から離れて再出発したと思われる。その後、タイトルが「アダム」のみになったり、出版社がSociete Française d'edition et de presseに変更したりしつつ刊行されている。最終号は明らかでないが、本館では51号（1973年11月）まで所蔵している。

なお関連誌として「アダム・テイラー（Adam tailleur）」が刊行されている。こちらはテイラーの名のとおり、洋服の作り方（パターン）の記事が多く掲載されている。本館では「アダム」のsupplément と表記されているもの（1937－1939年分を所蔵）と「アダム」のcomplément（補足）と表記されているもの（1963－1965年分を所蔵）の2種類所蔵している。「アダム」とは別に固有の号数づけがされており、complémentについては固有の価格表記もあるので、「アダム」とは別売りだったのではないかと思われる。（佐藤友治）

117号（1936年1月）表紙　ギャレット画